

モバイルファーマシー 活用シミュレーション

第一薬科大学では、このほど新型コロナウイルスと地震などの災害が複合的に発生するケースを想定し、被災地におけるモバイルファーマシー活用シミュレーションを実施した。

大地震や台風・水害が発生した直後は地域の薬局自体が被災し活動が制限されるため、モバイルファーマシーが被災地に向かい被災者の薬物治療の支援を行う。しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、被災者が薬を受け取るためにモバイルファーマシーに集まることも想定される。その限りあるスペースにおいては、「三密」を避ける区分は難しいため、クラスター（感染者集団）を生む可能性がある。

そこで第一薬科大学では、新型コロナウイルスと災害が複合的に発生するケースを想定し、モバイルファーマシーにおいて消毒用アルコールの設置やマスクの配布、できる範囲の換気、密にならないスペースの確保等のコロナ感染防止対策を行い、模擬被災者に対する薬物治療の実地演習を実施。

さらに、同大学教員の薬剤師が、模擬被災者に対して非接触式の体温測定や問診を行い、感染の疑いがあればパテーシオンで区分したエアテントに誘導する段取りも確認した。同大学で

は「今から新型コロナウイルスとの複合的災害をシミュレーションし、コロナ感染が拡大する中で薬剤師による災害薬事対応力を向上させ、被災者の安心に貢献したいと考えている」とした。

ネット上でオープンキャンパス キャンパス見学ができない高校生向けに、オンラインで自宅にいながら体験できる「ネットオープンキャンパス」を4月27日から公開している。福岡市の大学では初の取り組み。

初日にはZOOMを利用して、同大学教員による「新型コロナウイルス治療薬の最新線セミナー」「新型コロナウイルス感染症に対する漢方治療セミナー」「新型コロナウイルスに関連した肺炎患者の看護セミナー」をライブ配信。さらに、同大学教員との「オンラインのビデオ通話相談」「グループチャット相談」のウェブ入試相談会を実施した。

例年であれば、春は高校3年生がオープンキャンパスなどで各大学を訪問し、情報収集するところだが、この春は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、多くの大学でオープンキャンパスが中止・延期されている。

同大学では「医療大学として、新型コロナウイルスに関する正しい最新知識をウェブ配信する」とともに、ウェブ相談会を通じて高校生や保護者の入試相談に対応して、不安や心配を少しでも解消したい」とした。

オレンジの風²⁰ 緊急事態宣言の期間延長



令和2年5月4日、安倍総理は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の期間を5月31日まで延長することを決定しました。

4月7日の緊急事態宣言以降の感染拡大防止対策にも関わらず、感染者の減少が十分といえないこと、医療体制の逼迫の改善に1ヵ月程度の期間が必要であること、新規感染者を1日当たり一定のレベル以下に減らす必要があることなどを延長の主な理由として挙げています。

その上で、5月14日を目途に専門家地域ごとに分析し、可能であれば緊急事態宣言を解除することにも言及され、14日39県で解除されましたが、県をまたぐ移動の自粛要請は継続されており、全国にわたっての一刻も早い収束を願っています。

一方、国会においては、令和2年度補正予算案を審議し、4月30日の参議院本会議において可決され、歳出総額約26兆円の追加予算が成立しました。治療薬・ワクチンの開発加速に必要な経費（約830億円）とともに、サプライチェーン改革として、海外依存度が高い医薬品原料の

国内製造拠点の整備を支援するために必要な経費（30億円）が盛り込まれています。

さて、新型コロナウイルス感染症への対応としては、2月初旬以降の大型クルーズ船における感染者対策が注目されましたが、5月1日に厚生労働省のダイヤモンド・プリンセス号現地対策本部が報告書をまとめて公表しています。<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000627363.pdf>。「医薬品ニーズへの対応について」の項目では、病院薬剤師会、薬剤師会、薬局、卸売業連合会等多くの方々の支援があったことが記載されています。ご協力いただいた関係者の皆さんに改めて敬意を表したいと思います。

自民党女性局長
厚生関係団体委員会副委員長
参議院議員・薬剤師 本田顕子

1 本田あきこのホームページはこちらです。
下のQRコードから閲覧してください。

2 本田あきこメールアドレスを配信します。
下のQRコードから登録をお願いいたします。

